



大和中ロータリークラブ会報

KANAGAWA RI D2780

2022～2023

YAMATO-NAKA ROTARY CLUB 2073

会 長	石川達男	会長エレクト	野口 宏	事 務 所	大和市大和南 2 丁目 1 番 1 号
副 会 長	岸 幸博	幹 事	竹野国敏		大和中央ビル 301
プログラム・	橋本日吉	鈴木洋子	板垣克浩		TEL 046-262-1717 FAX 046-262-1818
クラブ会報委員会	向井嘉男				E-mail : naka-office@ynrc.jp
例 会 場	きらぼし銀行 大和支店 4F (毎週木曜日)				URL : http://www.ynrc.jp

国際ロータリーテーマ

IMAGINE ROTARY

「イマジン ロータリー」

RI会長 ジェニファーE.ジョーンズ

大和中ロータリークラブ会長ターゲット

「会える楽しみ 笑顔で奉仕 増やそう仲間」

【本日のプログラム】 12月1日 年次総会、卓話「米山奨学会について」

【次回予告】 12月8日 卓話「中小企業を取り巻くリスクと対策」 小林 拓郎 様

【第2067回例会】 令和4年11月24日(木) 【夜間移動例会】 会場 よろい鮎

第3回ロータリー寄席



会員数	出席者	出席率	前々回修正	出席免除	欠席者 7名(敬称略)
26名	18名	69.23%	73.08%	1名	原嶋、池澤、板垣、小柳、向井、新村、苗加

大和中ロータリークラブ句会

令和四年十一月二十四日（木）

会場「よるい館」

兼題「冬めく」または「落葉」 当季雑詠一句 ☆特選

参加十五名

点	兼題	作者	特選	添削
五点	落葉でロストも増えるゴルフかな	明彦	十三里の短評 母送る涅槃の道に冬の月 達男	
四点	湯煙りに冬めく時を覚えけり	馬之介	「涅槃の道」と表現したのが秀逸。尊厳が込められている詠みぶり。「冬の月」の季語が効果的。	
々	冬めける新羅の邦の友来る	達男		
々	阿夫利山はるかな富士は冬めけり	日吉		
三点	落ち葉見て我が髪思い寂しいな	幸博	・ 朝庭に揺らぎたる風落ち葉舞う 裕志	
二点	朝庭に揺らぎたる風落ち葉舞う	裕志	・ 落葉が舞う様を見て、風が揺らいでいると捉えたところが良い。作者は、落葉を通して風を見たのだ。	
々	冬めきて我消し祈る伊勢参り	宏	・ 雀らが落穂拾いの和みかな 馬之介	
一点	落ち葉はく翌日も翌々日も落ち葉はき	正巳	・ 稲刈り後の稽田（ひつじだ）が目には浮かぶ。刈田で和やかに落穂をつつく雀たちを、作者は慈しむ目で眺めている。	
々	旅日記楓落葉を葉とす	十三里	・ 木枯らしに負けじと遊ぶ子らの頬 定毅	
々	スライスで落葉隠す一打かな	明彦	・ 子ども達が遊んでいる姿はほのぼのとする。木枯らしが吹く中の子どものほのおさら。「頬」に焦点を当てたのが良い。	
々	落葉にならぬと胆に命じけり	馬之介		
々	煮て焼いて厨仕事の冬めける	十三里		
々	しぐれに濡れ落ち葉踏み踏み夜もすがら	公敏		
六点	「雑詠」 母送る涅槃の道に冬の月	達男	参考程度にしてください。	
五点	七五三引きずり歩く千歳飴	明彦	（原）愛妻と手繫いで見る冬の星	
三点	主役は誰親が張り切る七五三	友彦	（添）妻の手をそつと握るや冬の星	
々	雀らが落穂拾いの和みかな	馬之介	（原）「や」の切字を使つてリズムを良く。	
々	冬の鳥かけにしみじみ独り鳴く	公敏	（原）七五三引きずり歩く千歳飴	
々	木枯らしに負けじと遊ぶ子らの頬	定毅	（添）砂利道を引きずり歩く千歳飴	
二点	秋の暮伴侶が居るとひと安心	清	・ 季重なりなので上五をたとえば「砂利道」とする。	
々	愛妻と手繫いで見る冬の星	清	（原）猿来たり頬風船や熟し柿	
一点	ワックスをかけて夢見る雪便り	幸博	（添）熟柿食ひ頬ふくらます猿（ましら）かな	
々	友来たり談論風発おでんつく	定毅	「熟し柿」は「熟柿（じゅくし）」とする。	
々	秋晴れに飛び行くボール得意顔	正巳	下五は「親子猿」でも。	

2022. 11.24

*参加人数と特選数が一致しませんでした。失礼しました。